

「やってくれたね、ウクライナ空軍」：爆撃を受けた村民が キエフの市民殺しを告発

July 3, 2014

RT (Russia Today)

(RT ビデオ “Village of Victims” の生々しく残酷な映像)

ウクライナ東部の Kondrashovka 村が、7 名を殺したキエフ空軍による爆撃の後で、完全に崩壊した。ちぎれた死体が村中に散らばっており、生き残った人々は「なぜキエフは私たちの家族を殺すの？」と問うている。

少なくとも 5 発の爆弾が集落に命中し、Lugansk 市から 25 キロの所にある、平和なルガンスク地域共同体の道路全体を破壊した。ドラマティックな RT ビデオは、文字通り墓場に変形した地方住民の裏庭など、荒廃した村を映し出している。

「彼らは私の母を殺した、そして父は負傷した。私は父を病院へ連れて行った」と、アレクサンドル・ミロネンコは、RT の数少ない現場報道記者の一人、マリーナ・フィノシナに語った。



「私には妻を埋葬する金もない。なぜ彼女は殺されたのだ？」——我々はアレクサンドルの父を地方病院で見つけた。

アレクサンドルは絶望的にそこら中を歩き回り、敷地内に飛び散った人間の肉の破片を示

した。

「こっちへ来て。これが見えるかい、ちぎれ飛んだ人間の死体だよ。もっと撮影してもらいたい、こっちだよ。死骸だらけだ。これらはみんなテロリストだということだ！」と、彼は泣きながら皮肉を言った。

すぐ隣では、コンドラショフカの住人たちが、5歳の息子を失った彼らの友人の悲劇的な話をしていた。

「彼は昨日、息子の5歳の誕生日祝いをしたところだよ。そして今日、その子の足が切断されたのだ——生きてるかどうか知らないがね」と、隣人のセルゲイは言った。

「いやいや、あの子は死んだよ」と別の男性が言った。

「死んだ？ そうかい、じゃ死んだんだ」とセルゲイは付け加えた。



村の住民で、爆弾で全く無傷だった人はほとんどいなかった。「運のよかった」一人のアンドレイは、砲撃が始まったとき、自分の家族は家にいなかったと言った。しかし彼の家屋敷はひどく破壊された。彼はRTに対し、爆弾であいたフェンスの穴を見せた。

「どう思うかって？ やってくれたな、ウクライナ空軍、てとこだよ」と言って、彼は、もし爆弾が当たったとき家族が家にいたら、みんな死んでいただろうとつけ加えた。

呆然とした村人たちは、なぜ政府は、彼らの平和な村を狙うのだらうと言っている。キエフ軍は、“テロリスト”を殺すのだと言った——ただ、その言葉には女、子供、老人も含まれるのだが。

「なぜなの？　ここにそんな者はいないのよ。いるのは平和な市民、朝から晩まで働く貧しい人々だけよ」と、この地のある女性は言った。

「私たちは穏やかな者たちよ。ポロシェンコが大統領になったって、どうってことはないわ」と、ここの住民のイリーナ・スターシュクは言った、「ただ殺さないでほしい。ここには 12 人しかいないのだから。」



かつて空軍パイロットだったというユーリ（写真）は、なぜ部隊が村を狙ったのかについて憶測している。飛行機は自衛軍の基地を狙ったのだが、間違えたか、あるいは故意に、市民の居住地を爆撃したのだ、と彼は言う。

「最初は、パイロットは間違わなかった。ここから 3 キロのところには自衛軍の基地があるのだ。彼はうまく命中させた」とユーリは言った。「しかし二度目には、引き金を引くのが数秒遅かったのだ——間違ったのか、それともこの村を狙えという命令を受けたのか、それはわからないがね。」



キエフ空軍によって破壊されたコンドラショフカの通り（RT ビデオより）

一方、キエフ支持の **Azov Battalion** 代理司令官は、コンドラショフカ村の爆撃は「パイロットの間違い」による可能性があると認めた。

「私は、パイロットの間違いと外からの砲撃が、同時に起こったのではないかと思う」と、**Igor Mosyichuk** は、ウクライナの「112 チャンネル」に対して語った。そして、コンドラショフカ村はたまたま「岩山と難攻の場所」——人民の自衛隊とキエフ軍——の中間にあったのだと付け加えた。

この攻撃のあとでも、村の残った部分は安全ではなかった。インタビューの最中でも、砲撃の音ははっきり聞こえてきたからである。



RT取材班はこの地方の病院を訪ねたが、そこには水も電気も来ていなかった。この地域の発電所が別の空爆によって破壊されたからだった。

「我々は13人収容したが、うち4人はすでに死んでいました——5歳の男の子を含めて」と、中央病院のマクシム・パヴロフはRTに話した。

負傷者の中には、それ以前にRTに話してくれたここの住人、アレクサンドルの父、イワン・ミロネンコが含まれていた。

イワンはこの襲撃で妻を失って後、もうこれ以上生きていたくない、その意味がない、と語った。

「なぜ妻が殺されたのだ？ なぜ俺でなかったのだ？ なぜ神はこんなふうに私を罰するのだ？」と、イワンはすすり泣きながら言った。

ロシア政府は、キエフ軍による東部ウクライナ市民への攻撃を強く非難している。

モスクワは、キエフ政府に対し、地方の人々の命を救うために、この国の市民の所有物を砲撃することをやめるように要求している、とロシア連邦議員セルゲイ・ラヴロフは記者会見で話した。

「西側諸国は、キエフに対し、ベルリンで承認された宣言に従うよう説得すべきだ。この宣言は、ウクライナでの和平を確立することを目指す、特別折衝団を形成するよう呼びかけている」と彼は付け加えた。

ウクライナ危機を回避する方法を示すロードマップが、7月2日、ドイツ、フランス、ロシア、およびウクライナの外相による四方会談で合意された（リンク）。

ウクライナの東部地方が、ここ数か月、キエフ軍によって絶え間なく攻撃されている。水曜日には、ウクライナ政府は、今年春の戦闘開始以来、ドネツク地方一帯で279人が死に、そのうち160人が一般市民だと発表した。ルガンスク地方の数字は明かされていない。

この危機が深まることを怖れて、相当数の亡命者がこの国を捨てた。ロシアへのウクライナ亡命者の数は11万に達した、と国連の亡命局は6月27日、声明を発表した。



さらに多くの家が破壊され、さらに多くの人命が失われ、疑問はさらに大きくなる——そして答えは返ってこない。